

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

(有)エイブル 生コン工場 殿

2024年 4月 1日

有限会社 エイブル 生コン工場  
広島県三次市高杉町1470番地の3  
TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909  
配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町 地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合 4月1日~6月20日 9月11日~11月20日 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>°</sup> 又はスランプフロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	24	8	40

指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 - °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	- %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスランプ増大量	- cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	-				
混和材	製品名	-	種類	-	密度 g/cm <sup>3</sup>	-				
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40~20mm	7.95	-	2.63	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20~10mm	6.9	-	2.64	0.5±0.5
	③	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13~5mm	6.1	-	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤			Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		-		-				-	-	
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	- %	水の区分	上澄水	目標スランプ <sup>°</sup> 固形分率	-		
回収骨材の使用法	細骨材	-	粗骨材	-	安定化スラッジ水の使用の有・無					

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	467	319		419	419	209	2.88	
水セメント比	56.0 %		水結合材比			%		細骨材率	43.0 %	

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	$\alpha$	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$ $\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100/3.0}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	$m = \alpha \times SL = 1.25 \times 24 = 30.0$			30.0 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	$Cv = C \div \text{密度} = 288 \div 3.04 = 95$			95 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	$A = \text{設計容積} \times \text{空気量}(\%) = 1000 \times 4.5(\%) = 45$			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	$Va = \text{設計容積} - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699$			699 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			43.0 %
単位細骨材量	Sv	$Sv = Va \times s/a(\%) = 699 \times 43.0(\%) = 301$			301 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① $Sv1 = Sv \times 60(\%) = 181$			181 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② $Sv2 = Sv \times 40(\%) = 120$			120 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① $S1 = Sv1 \times \text{密度}(2.58) = 467$			467 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② $S2 = Sv2 \times \text{密度}(2.66) = 319$			319 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	$Gv = Va - Sv = 699 - 301 = 398$			398 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	$G = Gv \times \text{密度}(2.63) = 1047$			1047 kg/m <sup>3</sup>
	G1	① $G1 = G \times 40(\%) = 419$			419 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② $G2 = G \times 40(\%) = 419$			419 kg/m <sup>3</sup>
	G3	③ $G3 = G \times 20(\%) = 209$			209 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	$AE = C \times \text{添加率}(\%) = 288 \times 1.00(\%) = 2.88$			2.88 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②	
288		161	467	319		419	419	209	2.88		
水セメント比		56.0 %	水結合材比			%			細骨材率	43.0 %	

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

(有)エイブル 生コン工場 殿

2024 年 4 月 1 日

有限会社 エイブル 生コン工場  
広島県三次市高杉町1470番地の3  
TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909  
配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町 地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	夏季修正標準配合 6月21日～9月10日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラブ°又はスラブ°フー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類 による記号
		普通	24	8	40

指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスラブ増大量	— cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社	密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—				
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性 による区分		粒の大きさ の範囲	粗粒率 又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量 の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40～20mm	7.95	—	2.63	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	③	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5mm	6.1	—	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	A E減水剤			Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		—		—	—	—				
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水	目標スラッグ固形分率	— %		
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—	安定化スラッジ水の使用の有・無					

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	467	319		419	419	209	3.74	
水セメント比	56.0 %		水結合材比			%		細骨材率	43.0 %	

## 備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スラング 又はスラング フォー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22 \quad \alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100 / 3.0}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	m = α × SL = 1.25 × 24 = 30.0			30.0 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 288 ÷ 3.04 = 95			95 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	Va = 設計容積 - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699			699 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			43.0 %
単位細骨材量	Sv	Sv = Va × s/a (%) = 699 × 43.0(%) = 301			301 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① Sv1 = Sv × 60(%) = 181			181 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② Sv2 = Sv × 40(%) = 120			120 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① S1 = Sv1 × 密度(2.58) = 467			467 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② S2 = Sv2 × 密度(2.66) = 319			319 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	Gv = Va - Sv = 699 - 301 = 398			398 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	G = Gv × 密度(2.63) = 1047			1047 kg/m <sup>3</sup>
	G1	① G1 = G × 40(%) = 419			419 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② G2 = G × 40(%) = 419			419 kg/m <sup>3</sup>
	G3	③ G3 = G × 20(%) = 209			209 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	AE = C × 添加率(%) = 288 × 1.30(%) = 3.74			3.74 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	467	319		419	419	209	3.74	
水セメント比		56.0 %	水結合材比			%			細骨材率	43.0 %

備考

## レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

(有)エイブル 生コン工場 殿

2024年 4月 1日

有限会社 エイブル 生コン工場  
広島県三次市高杉町1470番地の3  
TEL:0824-66-2234 FAX:0824-66-2909  
配合計画者:片山 一夫

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町 地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	冬季修正標準配合 11月21日～3月31日 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
		普通	24	8	40

  

指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB

  

指定事項 (任意)	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	— kg/m <sup>3</sup>
	水の区分	使用材料欄に記載	コンクリートの温度	最高・最低 — °C
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載	水セメント比の目標値の上限	— %
	塩化物含有量	0.30 kg/m <sup>3</sup> 以下	単位水量の目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限 又は目標値の上限	— kg/m <sup>3</sup>
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスランプ増大量	— cm

## 使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社		密度 g/cm <sup>3</sup>	3.04	Na <sub>2</sub> Oeq %	—			
混和材	製品名	—	種類	—	密度 g/cm <sup>3</sup>	—	Na <sub>2</sub> Oeq %	—		
骨材	No.	種類	産地又は品名	アルカリ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率 又は 実積率	密度 g/cm <sup>3</sup>		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	化学法	5mm以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5mm以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	—	—	—	—	—	—	—	—	—
粗骨材	①	碎石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	40～20mm	7.95	—	2.63	0.5±0.5
	②	碎石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10mm	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	③	碎石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5mm	6.1	—	2.63	0.5±0.5
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤		Na <sub>2</sub> Oeq %	1.0		
混和剤②		—			—			—		
細骨材の塩化物量	①	0.00 %	②	— %	水の区分	上澄水	目標スランプ 固形分率	— %		
回収骨材の使用法	細骨材	—	粗骨材	—	安定化スラッジ水の使用の有・無					

配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	467	319		419	419	209	2.30	
水セメント比		56.0 %		水結合材比				細骨材率		43.0 %

備考

骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。

# レディーミクストコンクリート配合計算書

## 配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ <sup>*</sup> 又はスランプ <sup>*</sup> フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	8	40	BB
変動係数	V	当工場の実績により			10 %
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22 \quad \alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100/3.0}} = 1.21$ $\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$			$\alpha 1 = 1.22$ $\alpha 2 = 1.21$ $\alpha 3 = 1.25$ $\alpha = 1.25$
配合強度	m	m = α × SL = 1.25 × 24 = 30.0			30.0 N/mm <sup>2</sup>
水セメント比	W/C	$m = a + b \times C/W = -13.40 + 24.70 \times C/W$ $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{30.0 + 13.40} \times 100 = 56.9$			56.0 %
単位水量	W	当工場の実績により			161 kg/m <sup>3</sup>
単位セメント量	C	C = $\frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{161}{56.0} \times 100 = 288$			288 kg/m <sup>3</sup>
	Cv	Cv = C ÷ 密度 = 288 ÷ 3.04 = 95			95 ℓ/m <sup>3</sup>
空気量	A	A = 設計容積 × 空気量(%) = 1000 × 4.5(%) = 45			45 ℓ/m <sup>3</sup>
骨材の絶対容積	Va	Va = 設計容積 - (W + Cv + A) = 1000 - (161 + 95 + 45) = 699			699 ℓ/m <sup>3</sup>
細骨材率	s/a	当工場の実績により			43.0 %
単位細骨材量	Sv	Sv = Va × s/a (%) = 699 × 43.0(%) = 301			301 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv1	① Sv1 = Sv × 60(%) = 181			181 ℓ/m <sup>3</sup>
	Sv2	② Sv2 = Sv × 40(%) = 120			120 ℓ/m <sup>3</sup>
	S1	① S1 = Sv1 × 密度(2.58) = 467			467 kg/m <sup>3</sup>
	S2	② S2 = Sv2 × 密度(2.66) = 319			319 kg/m <sup>3</sup>
単位粗骨材量	Gv	Gv = Va - Sv = 699 - 301 = 398			398 ℓ/m <sup>3</sup>
	G	G = Gv × 密度(2.63) = 1047			1047 kg/m <sup>3</sup>
	G1	① G1 = G × 40(%) = 419			419 kg/m <sup>3</sup>
	G2	② G2 = G × 40(%) = 419			419 kg/m <sup>3</sup>
	G3	③ G3 = G × 20(%) = 209			209 kg/m <sup>3</sup>
単位混和剤量	AE	AE = C × 添加率(%) = 288 × 0.80(%) = 2.30			2.30 kg/m <sup>3</sup>

## 配合表 kg/m<sup>3</sup>

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
288		161	467	319		419	419	209	2.30	
水セメント比		56.0 %	水結合材比			%			細骨材率	43.0 %

備考